

園長だより



# みどりっこ



No.32

幼保連携型認定こども園

宮崎学園短期大学附属みどり幼稚園 園長 久島 孝昭

R2. 1. 17

8日(水)の3学期の始業式、幼稚園部の子どもたちが元気な顔を見せてくれました。大きな病気やけがもなく、子どもたちの笑顔を見ることができて、うれしく思いました。今年も子どもたちみんなが笑顔で元気に過ごしてくれることを願っています。式では「あいさつ」と「あとかたづけ」をしっかりしましょう、と話しました。「あいさつ」はずいぶんとよくできるようになりましたが、使ったおもちゃや遊具の「あとかたづけ」がもう少しです。園でも子どもたちに意識付けをしていきますが、ご家庭でもご協力をよろしくお願ひします。

## ○ 1月生まれの子どもたちの誕生会をしました。

10日(金)の午前、1月生まれの子どもたちの誕生会をしました。保育園部は3人、幼稚園部は23人の子どもたちがお祝いしてもらいました。

保育園部では、誕生月の子どもたちが干支にちなんでネズミの被り物をかぶって登場しました。紹介をして、誕生カードを渡しました。

私からは、園庭のプランターに植えてあるチューリップが芽を出していることを紹介し、みんなも元気ですくすく育ててください、と話をしました。その後、羽根つきや餅つき遊びをして楽しみました。お昼はみんなで一緒に楽しく給食を食べました。給食にはデザートでイチゴがついていて、子どもたちは大喜びでした。

幼稚園部では、誕生月の子どもたちの自己紹介があり、誕生カードを渡しました。私からは、干支にちなんだ話をしましたが、干支について知っている子どもが多いのに驚きました。その後、年齢ごとにお正月の遊びをして楽しみました。

保育園部も幼稚園部も保護者の皆さんに来ていただき、温かい雰囲気の中で行うことができました。来場いただいた保護者の皆さん、ありがとうございました。



## ○ 阪神淡路大震災から25年経ちました。

25年前の平成7年(1995年)の1月17日の未明に阪神淡路地方でマグニチュード7.3、最大震度7の大地震が発生しました。6,434人が亡くなり、約64万棟の住宅が損壊しました。当日のテレビのニュースで流された火災の様子や倒壊した高層ビルや高速道路の映像がまだ脳裏に残っていますが、現在の神戸市の街には震災の面影はなく、以前にもまして発展しています。しかし、遺族の方たちにとっては、忘れがたい日であることは今でも変わりありません。

大震災後、南海トラフ巨大地震の発生による大津波が宮崎市を含む太平洋沿岸を襲う可能性が取りざたされています。大震災直後は宮崎市でも住宅新築や転居に際して、海岸近くが敬遠され、高台の住宅地の人気が上がったこともありましたが、現在はどうでしょうか。利便性もあると思いますが、海岸近くにも住宅が盛んに建築されています。ただ、高台に住居があったとしても、職場や出かけた場所が海岸に近いということがあります。いざという場合の行動の仕方については、日ごろから意識しておきたいものです。園としても、毎月の避難訓練を通して、自分の命を守るためにはどうしたらよいのか、という視点から子どもたちの意識を高めていきます。

## ○ 子どもの欲求にどう対応しましょうか？

先日、保育園部に通う子どもの保護者とお話することがありました。登園する際、子どもがおもちゃを持っていくので、そろそろそれをやめさせたい、とのことでした。また、別の日の朝、車から降りる時に泣いている子どもがいました。保護者が車の中におもちゃを置いて降りたからだったようです。

保育園部に通う子どもたちが登園してくる時の様子を見てみると、お気に入りのおもちゃや人形を持っている姿をよく見かけます。しかし、保育室に入る前に保護者が受け取られ、その際、子どもたちが駄々をこねることはあまりありません。

幼い子どもは、目の前にある(目に映った)ものに対しては興味をもち、執着することがありますが、逆に目の前からなくなった(見えなくなった)ものに対しては、意外とあっさりと興味を失う(忘れる?)ことがあります。また、他に気になることが目に入ると、同様にそれまで気にしていたものに執着しなくなります。幼い子どもたちが得る情報のほとんどは目からです。理解できる言葉が少ないので、耳から会話による情報はなかなか理解できません。

そこで、登園時の子どもとの関わり方に戻ります。幼い子どもは聴覚より視覚による情報が多いという特性をもつということから、子どもからスムーズにお気に入りを受け取る方法を私なりに考えてみました。よろしければ一度試してみられてはいかがでしょうか。

- 1 保育室の前までは持たせる。保育室で子どもの意識を保育士や友達に向かせて、そのタイミングで受け取る。

※ 子どもの気持ちを保育室に向けさせることがポイント！ そのためには保育士との連携プレーが大切。笑顔で大人同士があいさつしたり会話したりしているのを見せることで、子どもに「楽しそうだなあ」と思わせて、気持ちをお気に入りから保育室に向かせる。

- 2 家を出る時に、「車を出る時に、車の中に置いていこうね。帰ってからまた遊ぼうね」と子どもの目を見て(意識をお気に入りから保護者に向かせる)、言葉で伝えておく。そして、保育室に行く前(車の中等)に子どもの目を見て「車の中に置いていこうね」と再度伝えて預かる。その際、その日の園での活動が楽しみだな、と思えるようなこと(「今日はお友達と何して遊ぶ?」「お庭で遊べるといいね」「今日のおやつは〇〇だよ。楽しみだね」等)を話しておく、よりうまくいくかもしれません。

※ 子どもがある程度、言葉や園生活のことを理解できていることが条件。1度ですぐにうまくいくとは限らないので、根気強く繰り返すことが大切。繰り返すことで言葉や状況の理解も進みます。

年少以上の子どもたちは、登園する時にお気に入りを持ってくることはほとんどありませんが、登園を渋る子どもは時々います。この年齢になると、耳からの情報もある程度理解できるようになりますので、言葉を使って対応することがよいでしょう。まずは、子どもの話を聞いてあげることです。子どもから言葉が出てこない時は、予想されることを保護者の方からいくつか言って、子どもに選ばせるとよいかもしれません。登園を渋る理由によっては、園(担任)に連絡していただくと、よい解決策が見つかるかもしれません。時には「眠い、だるい」等、その時の気分で行きたくない、と思っていることがあるかもしれません。そんな時は、「車(バス)の中でゆっくりしなさい。今日は園では〇〇があるよ。楽しみだね」と誘っていただくとよいと思います。どうしても渋る時は、体調に問題がなければ登園させてください。登園時に泣いていた子どもも、しばらくすると落ち着いて、気持ちも変わって楽しく過ごすことがよくあります。年少以上の子どもたちでも、まだ視覚から得る情報が多いので、保育士や友達が楽しく過ごしているのを見ると、それまでのことを忘れてケロッとして笑顔で遊ぶようになることも多いです。

朝の時間は慌ただしく、保護者の皆さんも時間や仕事のことが気になってイライラしてしまうこともあると思いますが、このような経験ができるのは今だけだと思って、子育てを楽しんでください。子育てには愛情と根気が必要です。自分の子どもの成長に適した関わり方を考えていきましょう。